

福島第一原子力発電所の事故収束に向けた取り組み

福島第一原子力発電所における事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をお掛けしておりますことに、改めて心よりお詫び申し上げます。

4月に発表した事故収束に向けた道筋について、進捗状況をお知らせします。

基本的考え方

原子炉と使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組みます。

目標

ステップ1
7月に達成



ステップ2

放射性物質の放出が管理され、
放射線量が大幅に抑えられている

年内の終了に向け全力で
取り組んでいます

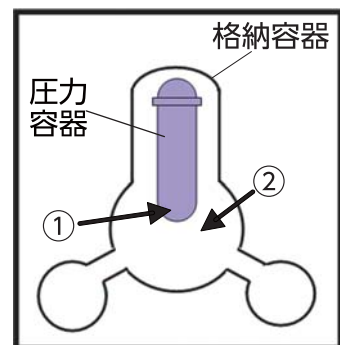
課題の取り組み状況

原子炉は100℃以下で安定しています

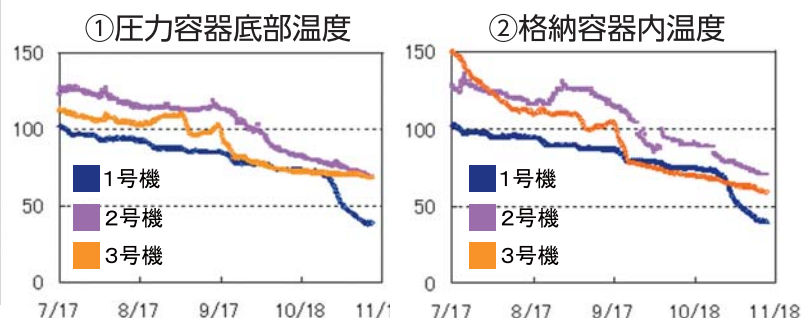
◆タービン建屋などにたまっている滞留水を処理して原子炉に注水する循環注水冷却を継続しています。

◆順調に冷却が進んでおり、11月16日時点の温度は以下の通りです。

- ①圧力容器底部温度 1号機：37℃ 2号機：69℃ 3号機：69℃
- ②格納容器内温度 1号機：39℃ 2号機：70℃ 3号機：59℃



温度の推移



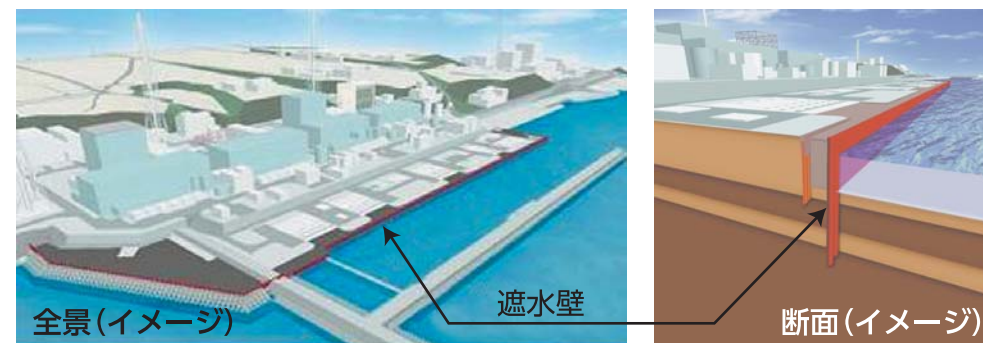
◆「冷温停止状態」を達成していることを確認していただいた後、ステップ2が完了する予定です。

放射性物質の放出量は事故時から大幅に低減しています

◆1～3号機の格納容器からの放出量は、合計で約0.6億ベクレル/時と評価しました。先月の約1億ベクレル/時からさらに減少し、事故時の約1300万分の1です。この放出による敷地境界での年間被ばく線量は、最大約0.1ミリシーベルト/年となります。

放射性物質の拡散防止を進めています

◆地下水による海の汚染防止に万全を期すための遮水壁の工事を開始しました。(10/28)



- ◆1号機の原子炉建屋カバーが完成しました。(10/28)
- ◆3, 4号機の原子炉建屋上部のがれきを撤去しています。
- ◆2号機の格納容器ガス管理システムが運用を開始しました。(10/28)



3号機がれき除去

4号機がれき除去

中長期的課題への取り組み

- ◆循環注水冷却システムの中期的な運営計画と安全性を評価し報告しました。
- ◆1～4号機の廃炉措置等に向けた中長期ロードマップを策定中です。

当社が毎日行っている記者会見をインターネットで生中継しています。
配信予定時刻：11時から(日曜除)、16時から(月・木曜除)
<http://www.tepco.co.jp/tepconews/streaming/index-j.html>